

平成 19・20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】

実施団体名【 堺市立教育委員会 】

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域 第2学年（ 読む ）	
(2) 単元名 「名前を見てちょうだい」（リライト教材）	
(3) 対象児童の実態 （2人）	
A 児	第2学年 国籍（ブラジル）母語（ポルトガル語）在籍年数（2年） ・ 簡単な生活・学習言語は、理解できる。発話が多く、自分から進んでコミュニケーションをとれる。 ・ 文章を書くことへの意欲も旺盛である。 ・ 言葉や文章を読んでも意味のあるものとして捉えることは難しく、内容の理解が困難である。 ・ 学習言語の習得が課題である。
	第2学年 国籍（ブラジル）母語（ポルトガル語）在籍年数（2年） ・ 簡単な生活・学習言語は、理解できる。 ・ 日本語に対する興味・関心が高い。 ・ 読むことへの意欲はあるが、言葉や文章の意味理解が難しい。 ・ 教師の支援があれば、読み取りは、キーワードを手がかりに答えを見つけることができる。 ・ 理解できる語彙数を増やすことと、学習言語の習得が課題である。
(4) 目標	
◇【教科指導の目標】	
・ 出来事の順序に注意して、人物が、どんなことをしたかを読み取る。	
・ おもしろかったことを友だちに伝える。	
◆【日本語指導の目標】	
・ 「はじめに」「次に」「最後に」など順序をあらわす表現を使った指示を理解する。	
・ 「(主語)が(どうした)。」の日本語表現に慣れる。	

2 学習活動

指導者 日本語指導担当教諭 自立支援日本語指導員
全体の時間数（4時間）

学習活動の状況, 指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
<p>①場面 1, 2 のあらすじを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物を知る。 ・読み聞かせを聞く。 ・出来事を確認する。 ・音読をする。 ・ワークシートにまとめる。 ・本時の感想を発表する。 <p>②・③ 場面 3・4 のあらすじを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読をし, 誰の会話かを確認する。 ・出来事の確認。 	<p>取り出し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物を知らせ, これからの学習に興味をもたせる。 ・話のイメージをつかませる。 ・「(主語) が (どうした)」の日本語表現を使って, 発表させる。 ・分かれ書きに気をつけて, 音読させる。 ・読めない漢字やわからない言葉を確認させる。 ・出来事の順序に注意して, 誰の会話なのかを考えさせ, 役割を決めさせる。 ・出来事の順序に注意して, 読み取らせる。 	<p>◇挿絵や紙で作った人形を活用して, 登場人物の確認や, 読み聞かせ, 発問をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆【AU A-4 経験を確認する】 「～したことがありますか。」 ◆【AU D-6 手順・順番を決める】 「はじめ(次, 最後)に～をします。」 ◆【AU I-5 推測する】 「～は, どうなりましたか。」 ◆【AU K-2 感じたことを表現する。】 「どんなことを思いましたか。」 「～と思いました。」 ◆【AU D-6】 ◆【AU B-3 疑問を挙げる。】 「どこがわかりませんか。」 <p>◇リライト教材の会話文に各登場人物の絵カードを貼らせる。</p> <p>◇絵や実物を提示して, 理解させる。 (林, 七色, 湯気, ししゅう)</p> <p>◇動作化して理解させる。 (どかん, ふしぎそう, ぱくん, ぼつん, ぶるぶるふるえながら)</p> <p>◇内容にあった台詞を考えて吹き出しに書き込ませる。(「ししぶ」)</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにまとめ、教科書文を読む。 ・本時の感想 <p>④紙芝居を作って発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居用の挿絵を順番に並べる。 ・文を作って発表する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・助詞などに気をつけさせる。 ・句読点に気をつけて音読させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童相互で相談して、並び替えさせ、自分の作る場面を決めさせる。 ・相手を意識して、発表させる。 ・読む楽しさを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆【AU B-4】 「なぜでしょう。」「～だから。」 ◆【AU I-5】 <ul style="list-style-type: none"> ◆【AU K-2】 ◆【AU K-12 作って表現する】 「～を作りましょう。」 <p>◇虫くいのリライト教材を用意し、キーワードを記入させ、文を仕上げさせる。</p>
---	--	--	--

3 成果

<p>①対象児童に対する成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AU を使用したことで、さまざまな言語の運用を経験できた。また、リライト教材による学習は、長い文章を読むことへの抵抗を減らし、内容理解を容易にした。 ・動作化や視覚教材を取り入れたことで、言葉の意味理解を容易にした。 ・ワークシートを活用することで、学習内容の定着が図れた。 ・作った紙芝居を友達に披露するなど、意欲的な姿勢が見られるようになった。 <p>②在籍学級児童</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リライト教材は、読み取る力が弱い児童にとっても話の流れをつかみやすく、効果があった。 ・視写させることにより、漢字や表現の仕方に注目させ、練習を深めることができた。 <p>③学習環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在籍学級においても、日本語教室の授業で使用したリライト教材やワークシートを使って学習を進めることができた。

4 課題

<ul style="list-style-type: none"> ○対象児童や在籍学級児童の実態に合わせた教材・教具・指導法の工夫が求められる。そのため、在籍学級担任との連携を深めていくことが必要である。 ○学習した表現に慣れ日常生活の中で使うことができるよう、様々な場を設定していく必要がある。
--